

「研究名」

大腿骨転子部骨折患者における stove-pipe 髓腔と不安定型骨折の関係性について

「研究責任者」

三豊総合病院企業団 リハビリテーション部 塩田伸也

「研究分担者」

三豊総合病院企業団 リハビリテーション部 三村知之

「研究背景」

我が国の老年人口増加に伴い、大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドラインによれば2030年には約30万人もの大腿骨頸部/転子部骨折が発生すると推計されており、運動器理学療法において頻度の高い疾患であるとされております。大腿骨転子部骨折において重症度を判断し予後を推測することは、重要であり数多くの分類が報告されています。しかしながら大腿骨の骨梁状態と重症度の相関に着目した研究は渉猟できませんでした。そこで今回は骨梁状態と髓腔形状に注目し、大腿骨転子部骨折の重症度との相関性について後方視的に調査・検討することを目的として行います。

「研究期間」

～2022年2月13日

「対象および方法」

1. 対象

対象は令和3年4月～令和4年8月までに大腿骨転子部骨折を受傷し、当院にて手術を行った113例（年齢 86.7 ± 9.8 歳、男/女：29/84例）を対象とします。

2. 調査項目と調査方法

1) 調査項目

調査項目は年齢、性別、BMI、骨粗鬆症の重症度としてJensen分類、骨粗鬆症の指標としてSingh分類とDorrが報告した髓腔形状の分類とします。Stove-pipe 髓腔の有無についてはNovelが報告したCFI(Canal Flare Index)に基づいて測定を行います。除外基準は、期間内に両側の転子部骨折を受傷したもの、片麻痺など両下肢に明らかな左右差を有するもの、高エネルギー外傷にて受傷したものとします。

2) 調査方法

後ろ向き横断研究とし、データ収集は施設内カルテより転記することで行います。

「説明と同意」

本研究は対象者に口頭で本研究の趣旨を説明し、インフォームドコンセントを得た上で実施しました。

「個人情報保護について」

本研究では、カルテ情報を利用する際に、個人情報と照らし合わせが必要になることがあります。ただし、個人情報は匿名化（誰のものであるかが特定できないようにする）して取り扱われます、個人情報が外部に漏れることはありません。

「利益相反」

今回の研究で利益相反は生じません。

「拒否および撤回」

研究への情報提供は利用者さんの自由意志によりますが、原則として拒否および撤回の意思表示がない場合には同意があったとみなし、情報等を研究に使用させていただきます。不同意や同意撤回の場合には、研究責任者へいつでもご連絡下さい。情報を速やかに破棄致します。しかしながら、撤回されたとき既に研究成果が論文などで公表されていた場合や、完全に匿名化され個人が特定できない場合などには、破棄できないこともありますのでご了承くださいのほどよろしくお願い致します。

「本研究に関するお問い合わせ」

〒769-1695

香川県観音寺市豊浜町姫浜 708

三豊総合病院企業団 リハビリテーション部 理学療法士 塩田 伸也

電話番号 0875-52-3366